

東由利村報

No. 99

1965・9・20

発行
東由利村役場
編集
畑山伝二郎
印刷
KK本間印刷所

議員研究会

8月24日役場において
報告及び協議事項

1、作況報告

全村の作況調査の結果、山間部におくれがあるが、平年作に近いものと見る。ただ最近白葉枯、青虫発生等があるので農協を通じ防除につとめている。

2、学校視察報告

8日9日建設委員会が、山内、横手2、浅舞の各統合中学校視察の結果を報告し、本村の統合中学について話し合った。

3、研修旅行について

作柄の好転により各種団体の研修旅行の中止を解除する。

4 玉米農業倉庫建設について
県農林部長よりの通牒の写しを配布し、玉米財産区よりの補助、さきに提出された稟情書などについて話合った。

5、昭和40年度道路対策について

41年度中に館合～山内間の全面舗装をしたい。

本年度は蔵～大琴間の舗装・蔵～大曲線岩館部落内の舗装蔵法内間にマイクロバスを運行したい。

41年度道路事業について各議員より活発な意見がのべられた。

6、構造改善の促進

事業が実施の段階にはいつているが仲々進まない、酪農養蚕共に機を逸せず促進するようご協力を望む。係より土地基盤整備・異議申立等の現況県補助の見通しが明るいとの報告あり。

7、台山種付所の運営

人工授精所施設はどうなっているか。種付所はこのままでは冬は越せない。住吉仔畜育

成所の現況、育成所の赤字処理（村にたよりすぎる）

関係者を呼んで速急解決する

8、火葬場の整備
さきの研究会で話した通り速急に整備するよう。

助役「大沼氏と話し合っている。4・5日中着手する。土手の高さは1.2m～1.6m、花だんをつくりネムの木を植える。

9、台山グラウンドの整備
41年度予算で台山グラウンドにトラック・フィールド・スタンド・水呑場・便所等の設備をせられたい。

10、議案審議の過程において
利害関係者を議会に出席させ参考意見又は事情をきくことが出来るか。

公聴会を開いて意見をきき、関係人の出頭及び証言を求めることが出来る。

11、統合中学校建設につき教育道路開設に対する補助を国及び県に願い出る。（ねがい書を朗読す）

お願書の要点

①学校建設に対する国県の補助、融資は建物だけに限られ敷地、道路には何もない。

②道路附近を敷地とすれば田に求めなければならないが、4ヘクタールの熟田をつぶすことは村の経済構造から出来ない。

③国や県では「地域格差の是正」「僻地教育の振興」を強く提唱している。2中学・7小学校・4分校・保育園2、定時制高校1をかかえて苦闘している村に対し、教育道路によって援助の手をさしのべていただきたい。

県 の

「記念日」きまる

県では今年から8月29日を「県の記念日」ときめました

この日は明治4年の廃藩置県で秋田県の生れた日です。

県民こそつて自治意識を高め、豊かな住みよい県を築くため理解を深め意欲を盛りあげるためのものです。

したがって県ではこの日を意義ある日とするために、記念式典をはじめ、明るい社会づくりのためかくれた善行をなしている方を表彰することにしており、各市町村の協力を得て、県開発事業の実地見学などを実施することにしてあります。

秋田県記念日に

部落長の研修旅行

8月29日の「秋田県記念日」にあたり、県の開発事業を僻地の人達に見学してもらうという趣旨にもとづいて、村では部落長の研修旅行を実施した。参加者は60名（64名中）案内役の役場職員3名と共に出発し、まず秋田空港を見学し、茨島工場地帯、秋田臨海工業地帯では広大な規模におどろきながら県職員の、秋田新産業都市の雄大な計画に関する懇切詳細な説明を聞き、八郎潟干拓現場では南部排水場の屋上より、村の全耕地の10数倍の干陸地を眺めてその計画を聞き、更に寒風山上より、近き将来飛躍的大発展を約束されている県の心臓地帯の全容を一望のもとに眺めて、大いなる夢をえがきながら帰った。

10月1日の

国勢調査について

お 願 い

10月1日午前零時現在で、全国一斉に国勢調査が実施されることは、すでに皆様御承知のことと存じます。

○9月24日から30日までの間に、村内の地区を担当する調査員が各世帯をまわって、国勢調査票と、その記入例とを各1枚づつくばります。

○世帯主または世帯の代表者は、9月30日まで調査票に記入しておいていただき、10月1日から調査員が世帯を再訪問して調査票を集めます。

○この時調査票の記入らんについて記入のあやまりや記入もれについて訂正するかあるいは記入していただきます。

○この時に訂正や記入などに時間がかかると、かぎられた期日までに調査表を提出することが困難になりますので、調査票に書いてある記入の仕方、あるいは記入例などをよく読むなり、調査員が最初に訪問した時によくきくなりして、間違のない調査票を書いておいて下さい。

○調査票の記入にあたっては世帯内の人口を1人ももらすことのないようご協力下さるよう、特にお願いいたします

いのちをまもる

全国交通安全運動

人命尊重の見地から交通事故の徹底を期するため、昭和40年度秋の全国交通安全運動が次によって実施されます。どうぞご協力下さい。

1 期間、9月25日～10月4日
2 運動の主な内容

安全横断

①急に道路に飛び出したりしないで、左右の安全をたしかめてから横切る
二輪車の安全運転

①きめられた速度を守る
②バイクやオートバイを運転する時は必ずヘルメットを着ける

③自転車の片手運転や二人乗りをしない

④一時停止の場所では自転車も必ず停止する。
酒のみ運転の追放

①酒を飲んだら車を運転しない

②車を運転する人には酒を飲ませない

道路環境の整備

①道路で遊ばない、遊ばせない

②路上で作業したり、物を置いたりしない

③道路の汚損を防ぎよく清掃する

交通安全県民総参加の日設定
10月1日を「交通安全県民総参加の日」と定め広く全県民の協力を得て、交通安全の行事を集中的にこの日に行う。

斎藤憲三先生大講演会

9月14日斎藤憲三先生の「本荘市由利郡の総合開発」に関する講演会が、村長の要請により、役場を会場として開催された。参加者は、村内の指導者層100余名で、科学知識がいかに我々の日常生活に農業生産に大切であるかを一々実例をもって説明されるので、午前11時から2時半まで熱心に聞き入った。以下ほんの要点を抜き書きする。

微生物農法

農業は他産業とちがい、相手は生き物である故に色々な困難が伴う。農業近代化を推し進めるために生産を大きく高めるには、微生物を極度に活用することが第一の要件だと考えるので、微生物農法10年計画をたてている。

木醋と農業の近代化

木醃液（炭焼の煙からとるスッバイ液）は、イモチ、モニリヤ、大腸菌、土壌線虫（菜やカブのこぶ）などの有害菌を除き、酵母菌、根瘤菌、消化バクテリアなどの有効菌を助ける。木醋により微生物の活動をはかり、画期的な増産

によって農業の近代化を推進する。

生命循環の法則

地球の出来た時は全部が鉱物であった。その鉱物によって植物が養われ、植物によって動物が育った。動植物が死ねば鉱物に帰る。このように生命は鉱植物と循環し、この循環を培介するものは微生物である。微生物のよく育つ土をつくるには堆肥を第一とする

理想の土

理想の土（細菌の最もよく育つ土）は酸度7.3~7.4の弱アルカリ性であり、奇しくも人間の健康体の血液の酸度と一致する。

その他

家畜の飼育と木醋、環境衛生槽の木灰の成分と健康、飼料としての麴の製法と利用、農業生産の究極は「味」の世界科学知識による器具~人間の耐久年数の増大など多方面にわたった。

おわりに木醋利用の実験をした。なお木醋は1斗かん430円、農協であっせんする。

国民年金だより

国民年金の老令年金を受ける資格は、60才までに25年以上かけ金を納め（または免除）なければなりません。昭和5年4月1日以前に生れた人（制度の始まった昭和36年4月1日で31才以上の人）はその年金に応じて、この老令年金を受ける資格の期間（つまり掛金をかける期間）は、24年から10年までちぢめられております。

ところが、国民年金制度が始まってから、今年の4月で5年になりますから、たとえば、昭和5年に生れた人は、すでに35才になりこれからかけ金を納めることの出来る満60才になるまでの期間は、あと24年しか残っておりません。ですから、どうしても今年の4月分から保険料を納めるか免

除をうけていないと、最低の24年の期間も満たすことが出来ず、これらの人達は永久に老令年金を受けることが出来なくなります。

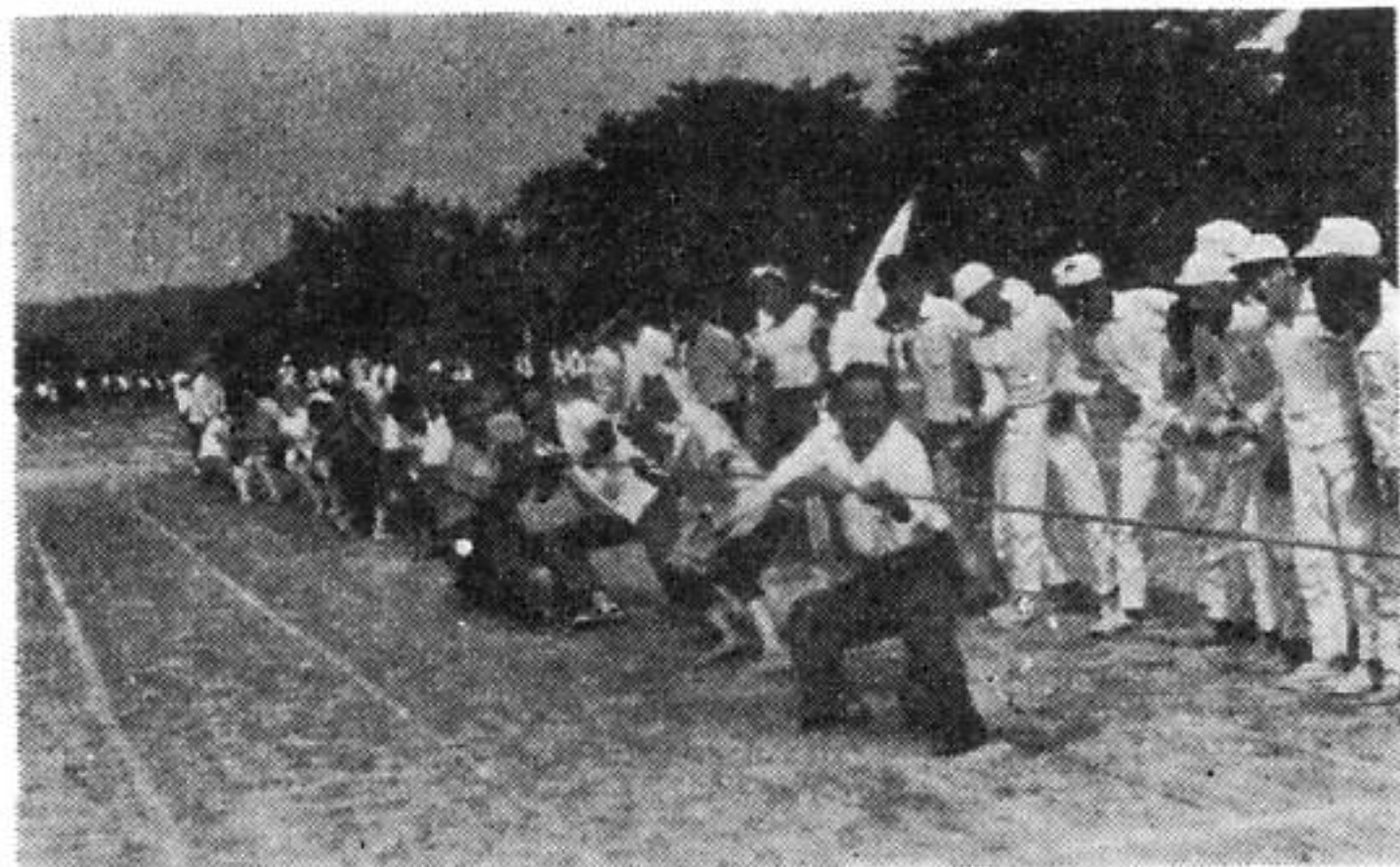
このように、今年の4月を境にして「国民年金を受けられるか、あるいは国民年金から完全に取残されか」ということは、大正5年4月2日から、昭和5年4月1日までの間に生れた人全部についていえることで、すから、この年金の人達で未加入の人はもちろんのこと、かけ金を納めないままになっている人も十分注意しなければなりません。

もし、加入がおくれるとこうしたかけ金をかけて受ける年金だけではなく、当然かけ金をかけないで受けられる福祉年金も受けられないということになりますから、今すぐ加入の手続をして、かけ金を納めるようにして下さい。

下郷中学校運動会

9月6日、下郷中学校の運動会が行われた。この運動会は、企画、準備、運営のすべ

てが生徒自体によってなされたもので、参観者の注目を集めた。



P T A の 綱 引 き

酒の密造をやめよう

春からの異常天候で、非常に心配された稲作も、どうやら平年作に近いという声が聞かれるこのごろ、村民一体となつての努力がみのつた思いである。

さて稲刈も始まり、これから「ドブロク」の出廻る時期である。わが村は近年、あらゆる面で明るい村づくりが進んで、各方面から注目されて来ているが、「ドブロク」だけは一向に減らないようである。この悪習を改めるにはどうしたらよいか、これまで色々ちえをしぼって来たが、どうも成果があがらない。そこで今回中学校の生徒に作文を通じて色々考え方や意見を聞いて見た。

その中から一つをえらんで見た。これを読んで、お父さん、お母さん達はどのように感じられますか、「ドブロク」追放の一助にして、子ども達の信頼を得るようにしていただきたいものです。

私の思うこと（中学女生徒）私は「ドブロク」をつくるころは一度も見たことがない見ないのがあたり前なのだ。酒しらべとかいう車が来ると大人たちは急いで「ドブロク」を見つからないようなとこ

ろにかくす。そんなに大事なものでしょうか、又どうしてかくしてまでもその「ドブロク」をつくりたいのか、私にはわからない。大人はあんなきたない、かくしたりしてつくる「ドブロク」をそんなにのみたいものでしょうか。父さん達が飲みたいといっても、母さん達がつくらなければ、絶対「ドブロク」づくりというものはないと思う。それでも母さん達は、わるいとしていてもつくっているのだろうか。

大人のやっていることはバカのように思える。そんなにまでして「ドブロク」を飲みたがる父さん達は、それ以上バカだ。大事な米をたくさん使って、つくってはいけない「ドブロク」をつくるのは、だれが考えてもいけないことだとわかるのに、それをつくる母さん達は、いったいどうして「ドブロク」をつくりたいのかわからない。…みんなが考えて「ドブロク」など造らなければ、秋田県はもっと明るいいりっぱな県になるにちがいない。

母子一体の 保育園運動会

9月3日、永慶保育園の運動会を見た。

会場の保育園の遊び場は、園児とその若いおかあさん達でいっぱい。

秋晴れの空のもと、園長さんや先生方、おかあさん達も一しょになって汗にまみれて準備に大わらわ。

おかあさんと子どもと一体となつての競技は真けんそのものでいかにも楽しそう。参観の村長もつい引き込まれて応援したり爆笑したり、まことに、和気いっぱい、花いっぱい、たのしい運動会であつた。



親子一体となつて

用意はよいか 日本は大きく変わる

これは8月16日横手市で開かれた全県公民館大会での、産経新聞論説委員長大和勇三氏の「これからの生活文法」というお話の要点です。

戦後日本の動き

①岸時代（安保斗争まで）

敗戦日本の後始末、内外の政治的諸問題の解決で、他をかえりみらいとまがなかった。

②池田時代

ようやく経済の再建に手をつけられるようになり、経済の高度成長に努力したが、人間をかえりみる配慮までには及ばなかった—経済とはそうしたものである—

③佐藤時代

政治がやっと本来の姿である人間尊重、人間中心の政治に手をつけられるようになった。

問題の開發

このような時代である。政治と教育とすでに突き当たった問

題を解決するだけでは用をなさない。問題の到来する以前にこれを予測して対策をたてるだけの明がなければならぬ

今後3年～5年のうちには日本国民の所得がヨーロッパ並の水準に達する。同時にその格差が大きくなり、非常に大きな生活の変化と混乱が起る。10年20年の先に見通しをつけて、やがて到来する事態に対処する用意が必要だ。

予想される変化と対策

①体力（特に女子）

ヨーロッパの女子の体力は男性並かむしろ以上である。産業構造の変化に伴い、基幹労働力としての女子体力の強化が大きく要請されている。

②孤独の問題

老後の孤独は今後の大きな社会問題である。新しい人間のむすびつきをどこに求めらるか。

先づ第一に子どもを多く持つこと。第二は老後「独」を守り通せる、物心両面の防衛力を養うこと。

③昔とちがった大家族づくり
核家族がそれぞれ独立した部屋と生活を持てるような新しい家族。

④大都市の失った取かえしのつかぬもの

「みどり」と「光と静けさ」

革新的なベニヤ製造機械 遠藤充技師が発明

全国の機械ベニヤメーカーが必死になって研究をつづけているベニヤ板の小片をつぎ合せて活用する機械を、本荘市出戸町で鉄工所を営んでいる遠藤充さん（37才）本村出身遠藤賢吾先生長男）が完成した。

これまでベニヤ板をつくる場合の小片、30cm以下のものは利用出来ないでこのスタリは20%にのぼっていた。これをつぎ合せる機械はドイツやスイスではつくられているが、1台2千万円以上もするので国内には数台しかはいっていない。

今度遠藤さんの完成した機械の性能は、ドイツ製が巾14cm以下のものは使えないのに対し、巾5cmのものまで活用出来るうえ、1分間当りの加工速度もドイツ製の1～5m

に対し、3～12mと3倍近くも上廻っており、値段も外国製の4分の1以下の500万円程度で出来るので、早くも全国各地のベニヤ機械メーカーから注文が来ているという。

優秀

和・乳牛賞

秋田県家畜共進会

8月28日～30日大曲市で開催された第54回秋田県家畜共進会で本村よりの出陳牛の成績は次のとおりである。

出陳頭数、和牛3、乳牛2

一等一席 畑山喜一郎

二等二席 佐藤 喜一

三等一席 小松 良一

乳牛、一等一席 太田 勇一

二等一席 大日向喜一

この結果東北六県の出陳者は、和牛畑山喜一郎、ジャージー太田勇一と決定した。

肥育牛のセリ

なおこの共進会と合わせて行われた第1回「秋田県肥育牛共励会」のセリで本村から出陳した牛は次のような価格で買いとられた。

174,200円、横山惣太郎

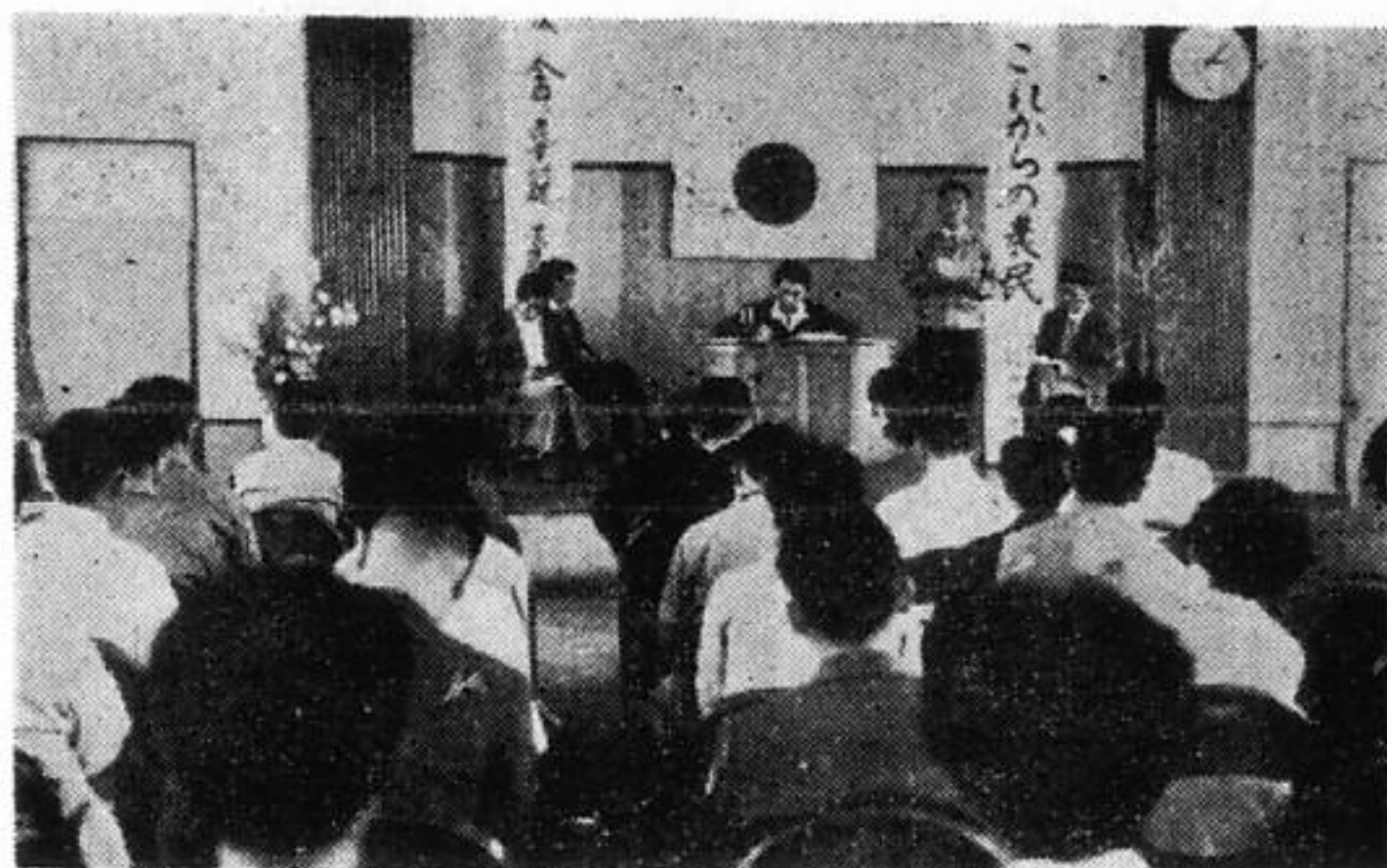
150,500円、横山又十郎

今回の最高価格は、稲庭川連町藤原政雄氏の260,100円

本荘由利農近ゼミ 地区別研究集会

秋田県教育委員会主催のこの会は、9月14日、役場、農協を会場に開催された。各市町村のゼミ学習団の代表者・担当主事・講師指導員・県郡の関係者等約170名参加分科会・全体討議等により、

学習の成果を交流し合い、共同研究の方向をたしかめた。集会中、東由利村長の村づくりの実体についての発表、長野県飯山市藤沢実験農場岡田米雄氏の特別講演は参会者一同に深い感銘を与えた。



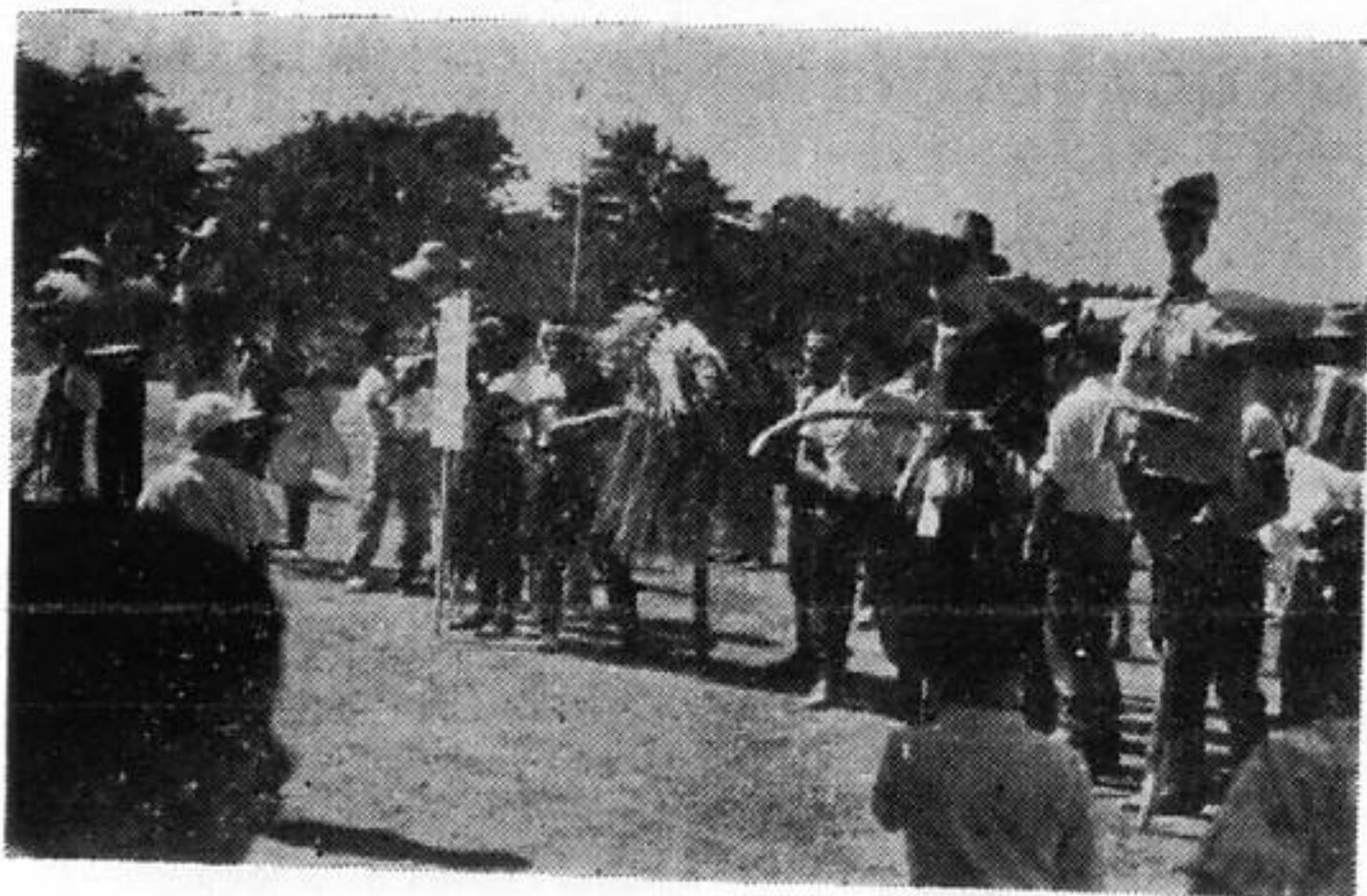
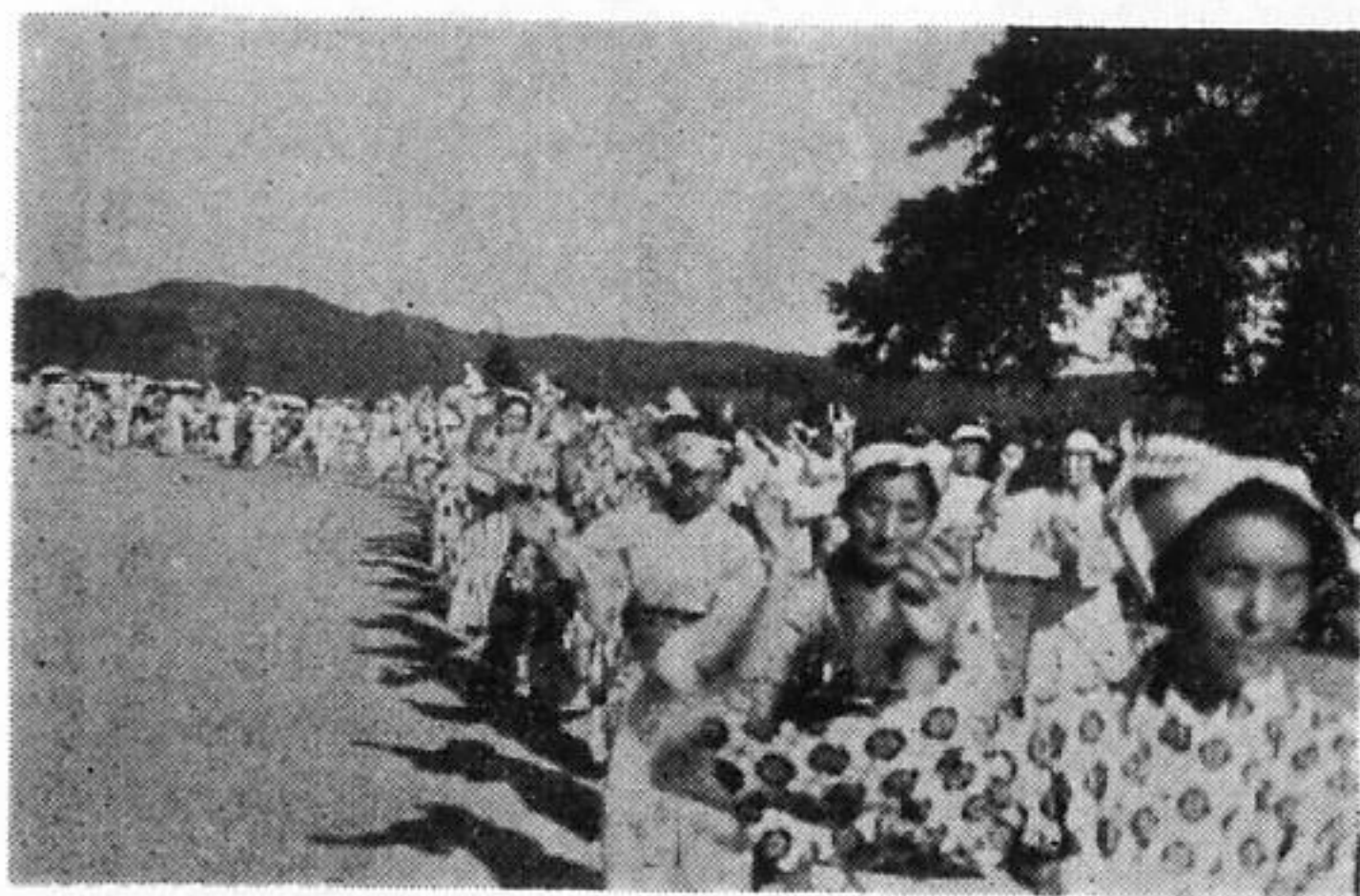
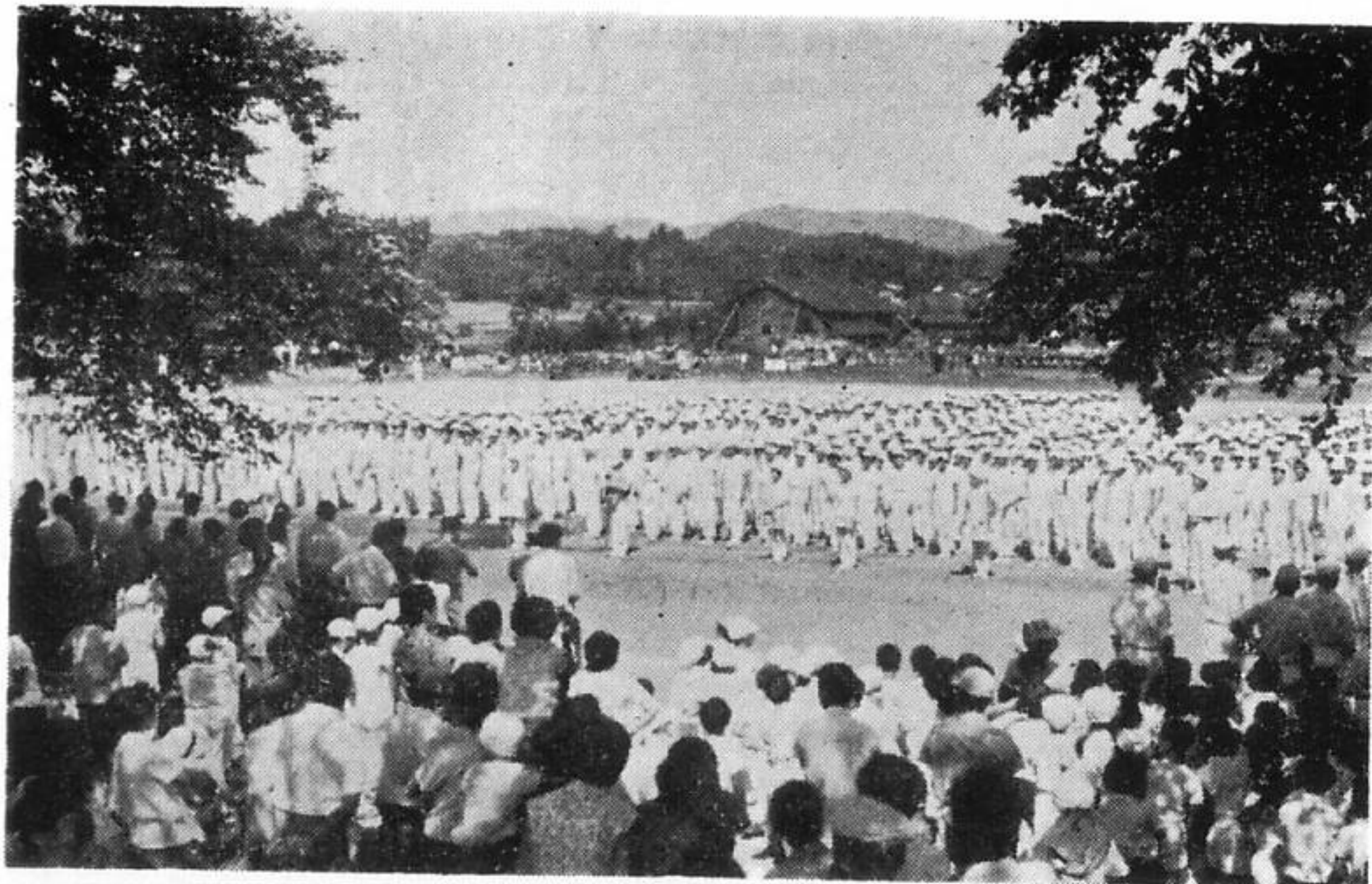
ゼミナール分科会

第2回、リズム体育大会

村づくりは、「まづ村民の和合から」と、第2回リズム体育大会は、二百十日の9月1日、台山グラウンドで行われた。保育園児や小中学生・各種団体・一般住民と村民の大

半が参加し、園児生徒のダンス・体操・ブラスバンド・鼓笛隊の行進、消防団の模範訓練、雀おどしの大ナマハゲまで飛び出すカカシショー、二人で一匹のジャージや女四

十七士まで勢ぞろいする仮装行列、おどりは秋田甚句にハタハタ音頭・おわりをかざる盆踊りは大グラウンドを埋めつくし、村長の気合をこめた大鼓にはづんで、まことに和気と意欲にあふれた大会であった。



上 下郷・玉米両中学生
中 おどりの輪
下 カカシショー

犬の放し飼いをやめよう

5千円以下の罰金

6月定例県会で「飼い犬取締条例」の一部が改正されました。これは最近とくに多くなった放し飼いや、野犬による危害を防ぐため、昭34年に制定された取締条例を強化したもので、改正された重要な点は次のとおりです。

- 1 飼い主は公衆に危害を加えないように飼犬を飼育管理すると共に、丈夫な綱やくさりでつなぎ、または犬舎に入れて「けい留」することが義務づけられた。
- 2 公衆に危害を加えた犬、またはそのおそれある犬に対しては「口輪」をはめ、オリに入れなければならない。
- 3 飼い主は公衆に危害を加えるおそれのない場所で犬の訓練、犬の運動をさせなければならない。
- 4 この措置命令に従わない者は、5千円以上の罰金、拘留または科料に処せられる。

敬老会

昭和40年度の本村敬老会は去る9月15日の老人の日を中心に、各小学校区域毎、7カ所で行われた。記念品の贈呈や健康コンテストの表彰などの後、婦人会員の心のこもるもてなしによりとてもよこんでいただきました。

対象になったご老人は、男112、女154の266名で70代233、80代30、90代3名で、最高令者は玉米新田の小松センさん94才でした。

社会福祉協議会へ寄附

去る8月25日、大琴の佐々木善藏さんがなくなりましたが、喪主佐々木君三さん(教育委員)は、香典返しを廃止し、金5,000円を村社会福祉協議会に寄附して下さいました。ありがとうございます。

空前の高値 定期家畜市場 9月2日

	出場頭数	最高	最低	平均
雄	30	68,100	43,300	53,373
雌	37	86,300	38,600	52,516
計	67			52,900

総売上げ額 3,544,300

9月の税金の納期

国民健康保険税 第2期分

9月に発せられる督促状

村、県民税 第2期分

◎税金は納期内完納の習慣を
あなたも私も身につけよう

東由利・矢島青年会 交流会

去る8月28、29の2日間、住吉小学校を会場に、東由利・矢島の青年交流会は、地元会員70名、矢島青年会幹部17名の参加によって行われた。

村長・公民館長より熱意をこめた講演をきき、親交を深めると共に、今後固く手をむすんで郷土の開発に努力することを話し合った。